

平泉寺こぼれ話～第23話～
これには何でしょうか？



平泉寺からの出土品です。

ヒント

- ①. 笠谷石という柔らかい石を加工して作られている。
- ②. 長さは45cm、幅は30cm、高さは12cmである。
- ③. 平成元年度の僧坊内の発掘調査で出土しており、中世に使われたものである。

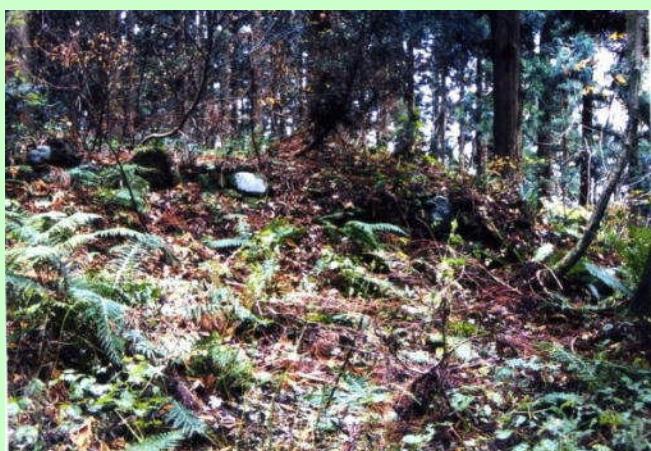
答えは最下段↓

越前禅定道探訪記 その10
早内森の旧跡

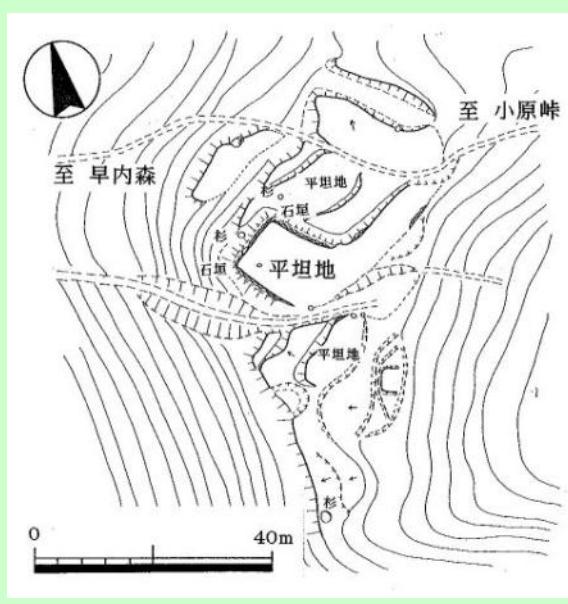
七難の岩屋と思われる岩陰の約50m手前には、尾根を登る古道がある。その古道の途中には江戸時代以降につくられたと考えられる田畠の跡や建物跡が所々に存在する。この古道をしばらく登ると、道に石段らしきものが確認されはじめ。そして右手にお堂の跡と思われる平坦地が見えてくる。標高は1,000m付近である。

平坦地は東から西にかけてのびる尾根上を削り出し、長さ12m、幅10.8mの建物基壇を作っている。基壇の高さは0.8～1.6mで、石積みになっている。基壇上には建物の礎石と考えられる石（0.5m大）も数点確認できる。この遺構は石積みの状況から判断して中世にさかのぼる可能性がある。

この遺構の周囲には多くの平坦地があり、附属する施設があったようである。



早内森の旧跡



答え 水盤 水をはって花を生けるのに使ったと考えられます。

(4)

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 30 (2011年3月号)



【発行】 勝山市教育委員会 史蹟整備課
【発行日】 平成23年3月24日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電話: 0779-88-8113(直通)
メール: shiseki@city.katsuyama.lg.jp



平泉寺世界遺産講演会2011開催される

平成23年3月6日（日）、勝山市教育会館において平泉寺世界遺産講演会が開催されました。当日は、文化庁の調査官で、パリのユネスコ世界遺産センターにも勤務経験があり、平泉寺の史跡整備も担当されている市原富士夫先生をお招きし、平泉寺の史跡整備と世界遺産について、お話をいただきました。講演会に引き続き行われた対談では、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館顧問の吉岡泰英先生と市原先生が史跡平泉寺の今後の展望についてお話しされ、参加された約120名の方は熱心に聞き入っていました。

今号の内容

特集: 平泉寺世界遺産講演会2011

連載: 禅定道探訪記 その10

平泉寺こぼれ話～第23話～

(1)

平泉寺世界遺産講演会2011

- ・文化財をより身近なものに感じて、生活の中で守り伝えていくことが大切
- ・現在の世界遺産登録への道のりは大変厳しく、ハードルが高い。しかしながら、平泉寺や白山には多くの魅力があり、これからも継続して関係自治体が世界遺産登録推進の取り組みを進めてほしい。地道な活動の先に世界遺産登録が見えてくるのではないか



講演会の様子



多くの魅力をもつ平泉寺



すばらしい取り組みの平泉寺歴史漫画

市原調査官は「平泉寺の史跡整備と世界遺産」と題し、映像をまじえ1時間にわたり講演されました。講演は以下の4つの項目に分かれます。

- ①. 文化のとらえ方
- ②. 世界遺産
- ③. 傾向と対策
- ④. 白山平泉寺と世界遺産

講演内容をまとめます、

①については、日本の文化行政は世界的にみると国のお宝を守るような形になっており、文化と市民の接点が狭い。人口比でみるとフランスでは日本の約20倍の予算を文化にあてている。それは文化・芸術・美術・文学・芸術家の養成など多岐にわたり、文化と市民の接点は日本と比べてかなり広い。

②については、実際にパリのユネスコ世界遺産センターで勤務された経験をお話されました。

③については、世界遺産登録の現状を話され、世界遺産だけにとらわれないフランスの取り組みを紹介されました。フランスでは魅力あふれる遺産を、「フランスで最も美しい村」に登録し成功している例がある。自分たちの住む村のすばらしさをアピールしていく一つの例になる。

④については、勝山市では平泉寺という文化財の価値を顕在化するため史跡整備を進めており、国や県はそれを支援している。こういったハードだけではなくソフトも必要。市民の方が文化財をより身近な物に感じ、その取り組みが生活中で息づいていく事が大事。そういった点から見ると、地元の方が中心となって作成された「白山平泉寺物語」はすばらしい。こういった取り組みの先に世界遺産が見えてくるのではないか。

対談

史跡平泉寺の今後の方向性を探る

- ・史跡平泉寺は高い潜在能力を持っており、それをいかにして顕在化させていくかが大切
- ・史跡の保存と活用には、市民や地域住民の理解と協力が必要



吉岡泰英先生



市原富士夫先生

対談に先立ち吉岡先生は、長年たずさわってこられた一乗谷の発掘・整備の概要を紹介されました。以下、対談の内容を簡単に紹介します。

吉岡氏：全国的な視点から見た史跡平泉寺の特徴と今回の史跡整備の特色は？

市原氏：平泉寺は石を多用している点に特徴がある。日本の文化は土と木を中心に成り立っており、異色といえる。

平泉寺の史跡整備は、ガイダンス施設や門・土塀の建設など必要最小限のハード整備をする中で、史跡の持つ潜在能力を顕在化させていく方法といえる。

吉岡氏：史跡整備は、遺跡を保存し活用していくことが大きな柱。活用は保護にとって対立的と考えられるが、それらを両立させて将来に伝えていくことが大切。それには市民や地域住民の方々の理解と協力が必要。

市原氏：行政の役割は、地道な調査を続ける中で遺跡の価値を伝え、市民団体などによる活動をサポートしていくこと。

吉岡氏：遺跡の持つ潜在能力は、史跡整備によって地域の皆さんにとってのアイデンティティとなり、個性豊かな特色あるまちづくりにもつながっていく。その結果として世界遺産登録があるのかもしれない。

市原氏：平泉寺や白山には多くの潜在能力があり、その能力を上手に顕在化させていくことが大切。

吉岡氏：史跡整備はテーマパークとは違い、長い歳月が必要。市民の方がいかに関わっていくかも大切だ。

市原氏：勝山市は発掘調査から史跡整備へのタイミングをうまく捉えている。今回の総合整備が一段落したら、次のステップに踏み出すために、これまでの経過をふまえ課題を検討していくことが大切。そうすると次のステップは世界遺産につながるのかもしれない。



講演会での展示



テレビ局も取材に訪れました